

## 30周年記念アンケート「思い出に残った演奏会」

———今回参加のメンバーを中心に、自由に記入してもらいました。いささか内輪な話ばかりではありますが、共通の思い出や独自の観点などなど、お楽しみください♪

過去の演奏会はこちら → <https://blumenphilharmonie.net/category/concert/>

♪このオーケストラはずいぶんチューニングに時間がかかるなあとお感じの方が多いかもしれませんが、実はこれはこのオケの師匠であるゲルハルト・ポッセ先生の教えなのです。ポッセ先生はグヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターなどで活躍された音楽史の生き証人でしたが、残念ながら2012年に亡くなられました。ブルーメンフィルを過去に4回指揮をしてくださいましたが、練習の時にポッセ先生が、チューニングはプロでも難しいのに君たちに簡単に短時間でできるわけがない、といった意味合いのことをおっしゃったうえで、チューニングの仕方を教えて下さり、そのあとは全員で音階練習をやり、音楽の基本を教えて下さりました。もう20年近くも前の話ですがその教えをしっかり受け継いでおります。(Vn. T.S.)

### 第1回～第20回（1993-2002年）からのメンバー

♪第1回（立ち上げ時のメンバーが鮮烈）、堀伝さんのディベルティメント（解釈と音楽の悦び）、第22回（古部さんが魔笛と運命を指揮する間にモーツァルトのコンチェルトを吹いてくださる、音楽的贅沢）、ポッセさん回（いただいた音楽全てが私の宝物…それぞれの曲について聞いたお話も含めて）、桑田さん回（特にスコットランドとエロイカ、やりたい音楽を想像を超えるエネルギー量で実現）、デイトリッヒさんの田園（取り組み姿勢の細かさ笑）、ケイマルさんのトランペットコンチェルトとアンコールのモルダウ（耳を挿んで離さない）、山田和樹さん回（カリスマ性と魅力）、第38回（家族3人で参加）、武藤さんのドヴォルザーク（自分にとって新たな視点）、阪さんのベートーヴェン（流れが新鮮、7番の後の8番、ヴァイオリンのパート入れ替え）、白井圭さんのコルンゴルト（言葉にならない美しさ）……とても書ききれませんがこの辺で。(Vn: M.N.)

♪桑田さんとのスコットランド：桑田さんが最初の闘病から復帰された後の演奏会でした。音楽への熱い熱い思いが詰まった濃いご指導で、それをどう音に乗せたら良いのかを懸命に考え模索した本番でした。(Vn: N.T.)

♪第26回：ポッセ先生との初めての演奏会。バイオリン奏法の基礎からみっちり指導、アンサンブルから音楽への向き合いかたまで教えていただいた。(Vn: K)

♪第20回特別記念演奏会のドイツレクイエム：中田さんの指揮での合唱団との共演、練習から本番までとても内容の濃い演奏会だったと印象に残っているため。(Vn: Y.I.)

♪ポッセさんとの第36回ブルックナー 4番、第50回マーラー 9番、第40回ベートーヴェン第九、阪さんとの第52回、懸田貴嗣さんとの2014年特別演奏会：どの演奏会もすべて本当に思い出深いです。珍しい曲を演奏するのも楽しかったです。ブルーメンの演奏会で指揮者の方々から、たくさんのことを教わり、回を重ねるにつれ、より深く音楽の楽しみを知ることができました。ポッセさんとのブルックナー 4番は、練習時にポッセさんが歴史上の巨匠指揮者のお話をしてくださったことで、ヨーロッパの音楽の歴史に入り込んだような気持ちになりました。そして集中した本番の演奏。かけがえのない演奏会でした。(Va: K.S.)

♪堀伝先生との「ストリングスの悦楽」：初めてブルーメンに乗った回です。当時学生オケに所属していた身にとって、弦楽器がうますぎて雄弁で、文化も所属学生オケとかなり違っていて、衝撃的でした。山田和樹さんとのシューマン「マ・メール・ロワ」「春」：とても楽しかった回。マ・メール・ロワの終曲の最後の繊細さや、シューマンの第1楽章の最後の生き生きとした様子を今でも覚えています。

デイトリッヒさんとの「田園」：音程などの基本を徹底的に指導されて、結果として最終的にはとても感動できた演奏会でした。大きな印象を与えるためには細部の積み重ねが大事だということを思い知ったように思います。

桑田先生との「エロイカ」：トップの弾き方や心構えをたくさん教えていただきました。特に第2楽章、低弦がffのAsで入る箇所のご指導（「君のタイミングは正しいけど、それだと後ろは出られないよ」）をよく覚えています。

阪さんとのベートヴェン7、8番：近年稀にみる、(もちろんシビアですが) いろんな比喩の飛び交う楽しい練習と本番でした！(Vc: Y.Y.)

♪数えきれませんが、すべてのポッセさん回（第26、29、32、36回）、第38回、第39回、マタイ受難曲(2014)、マーラー8番(2016)、第49回、第50回は特に：ポッセさん体験はどの回も格別だった。第38回（牧神）と第39回（コンチェルト代奏）は個人的に必死にさらった。マタイ、ブル7、マラ8・9は、得難い幸せだった。(Fl: T.T.)

♪曲目として、ヴェルディ：レクイエム、バルトーク：管弦楽のための協奏曲、レスピーギ：交響詩「ボッティチェリの三枚の絵」などは、貴重な経験だったと思います。単純にファゴットが活躍するからです。

指揮者では、桑田歩さんが印象に残っています。桑田さんとは同い年で、他オケで長女の指導をしてくださっており、他の指揮者の方々よりも心の距離感が近かったからです。

また、思い返してみると、第1回定期演奏会のとときにかかってきた1本の（固定）電話が現在まで続いているわけで、感慨深いものがあります。(Fg: tagott)

♪第7回演奏会：Rシュトラウスのドッベルコンチェルトを演奏するという貴重な経験をさせていただいたので。(Fg: K.H.)

♪第2回のイタリア、桑田さんとのブラ2：疾走感・爽やかさが最高だったイタリア。そしてコロナ禍明けの活動再開、かつ桑田さんとの最後の共演になったブラ2。(Hr: M.S.)

♪第13回：はじめて乗れた演奏会で須田さんとも初共演（贅沢すぎ）。第19回（シューマン4番）：当時のブルーメンの雰囲気凝縮された快演だった。特別演奏会2008（ポストホルン・セレナーデ）：キャラ変のきっかけに。第30回（オケコン）：ターニングポイントとして。燃えた。第33回（セレナーデ1番）：ブラームスの音楽への向き合い方を再考できた。第36回（ロマンティック）：ポッセさんと音楽できた稀有の体験。団員の集中力も凄まじいものがあった。第40回（第九）：節目として思い出深い。創設20周年記念演奏会（こうもり）：指揮の姿が頭から離れない。音楽復興支援演奏会（マーラー8番）：一期一会の演奏ができた。人生観が変わるほどの影響を受けてしまった。第48回（ベートーヴェン7/8番）：両曲とも充実した響きを楽しめた。第50回（マーラー9番）：集大成として感動的だった。第51回（ブラームス2番）：コロナ禍での奇跡的な演奏会として感慨深い。特に気迫のこもったコーダが忘れがたい思い出。なお、第2回ではじめて聴衆としてブルーメンの演奏を聴き、衝撃を受けた。当時は自分が乗せてもらえるなんてまったく思えなかった…。(Trp: I.T.)

### 第21回～第30回（2003-2008年）からのメンバー

♪第36回ポッセさん、第45回桑田さん、第44回白井さん、第42回角田さん、松本でのマタイ、懸田さんとの特別演奏会：それぞれ指揮者やソリストの音楽に大きな影響を受けた、特に心に残っている演奏会です。(Vn: M)

♪ポッセさんとの第36回演奏会（ロマンティック）は、初回練習からいつもとまったく違う練習でした。

第51回（桑田さん指揮、新倉さん独奏）は、桑田さんと新倉さんのソリストアンコールがとても感慨深かったです。松本でのマタイ受難曲も、とても貴重な経験となりました。(Cb: N.U.)

♪マーラー8番、マーラー9番、桑田先生のブラ2、第27回の田園（とサリエリ）、乗ってなかったですがケイマルさん：毎回それぞれが思い出深いのですが、特に印象に残っている演奏会です。ブルーメンはずっと憧れのオケで、聴衆としても印象に残る演奏会が沢山ありました。(Trb: YN)

### 第31回～第40回（2009-2013年）からのメンバー

♪ストリングスの悦楽～ヴァイオリニスト白井圭を迎えて～：バイオリン弾きには夢の様な共演でした！（Vn: R.E.)

♪桑田さんとのシューマン2番…「ロマン派の作曲家はシューマンだけです」寺岡さんとの第九…初めてブルーメンに参加した演奏会で、初リハの弦楽器の圧力に圧倒されたのは今でもよく覚えています。ポッセさんのハイドンパリエーション…乗ってないんですが初めてブルーメンを聴いた演奏会で、後にも先にもあれ以上のハイバリ聞いたことがない、人生ベストです。(Ob: K.G.)

♪ブルックナー7番：2楽章と4楽章しか吹いてないんですが、あれは忘れられない演奏です。(Hr: A.Y.)

### 第41回～第50回（2014-2020年）あるいはそれ以降が初参加のメンバー

♪①第44回：初めて参加して、ブルーメンのサウンドに圧倒されました。ブラ3本当に楽しかったです。

②第48回：ただただ楽しかった。ベートーヴェンの7番8番をあんなにワクワク弾けたのは初めてで、この2曲であれを超える演奏会はそうそうできない気がします！

③第49回：奏者としては参加しておらず、スタッフでお手伝いしましたが、徐々にブルーメンを客席で聴いて、なんて良いオケなんだと涙しました。ブルックナー7番がとてもよくて(特に2楽章)、次にブルーメンでブルックナーをやる時は必ず参加すると強く思いました。

④第53回：須田先生がとにかくカッコよかった！！(Vn: M.T.)

♪須田祥子さんの白鳥を焼く男：この頃は出演したことはなく、客席で聞いたのですが、この演奏以来須田祥子さんのファンになりました。(Vn: つあお)

♪偶然ながら、団員だった方が若くして亡くなった直後にレクイエムを演奏することとなり、重みを感じた。悲しく美しい旋律に涙が出た。(Cb: Y)

♪第50回マーラー9番：ブルーメン初参加かつマーラー9番…ということでオケ人生の中でも1、2位を争うほど緊張した演奏会でした。(Cl: S.G.)

♪マーラー8番：演奏中のあの特別な感動は今でも忘れられません。(Trp: ふ)

♪第53回のアンコール：アンコールの悲しきワルツの弦のppがアマオケではブルーメンでしか出せない素敵な雰囲気と音色だった。(Vc: Y.T.)

♪今回：ブルックナー8番好きだから。(Trb: k)